StorageGRID S3要求

StorageGRID

NetApp
November 04, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/storagegrid-117/s3/get-bucket-consistency-request.html on November 04, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

StorageGRID S3要求 . . . 1
GET Bucket consistency . . . 1
要求例 . . . 1
応答 . . . 1
応答例 . . . 2
PUT Bucket consistency . . . 2
リクエスト . . . 2
要求例 . . . 3
GET Bucket last access time の場合 . . . 3
要求例 . . . 3
応答例 . . . 3
PUT Bucket last access time のように指定します . . . 4
例をリクエストする . . . 4
バケットのメタデータ通知設定を削除します . . . 5
要求例 . . . 5
GET Bucket metadata notification configuration . . . 5
要求例 . . . 5
応答 . . . 6
応答例 . . . 8
PUT Bucket metadata notification configuration のコマンドです . . . 9
リクエスト . . . 9
例をリクエストする . . . 11
検索統合サービスで生成される JSON . . . 13
メタデータ通知に含まれているオブジェクトメタデータ . . . 14
GET Storage Usage 要求の略 . . . 15
要求例 . . . 15
応答例 . . . 15
バージョン管理 . . . 16
従来の準拠のためのバケット要求が廃止されました . . . 16
コンプライアンス機能は廃止されました . . . 16
廃止：準拠のための PUT Bucket 要求の変更 . . . 17
廃止予定： GET Bucket compliance 要求 . . . 18
廃止予定： PUT Bucket compliance 要求 . . . 19

StorageGRID S3要求

GET Bucket consistency

GET Bucket consistency 要求を使用すると、特定のバケットに適用されている整合性レベルを確認できます。

新たに作成したオブジェクトに対しては、リードアフターライト整合性を保証するようにデフォルトの整合性制御が設定されます。

この処理を完了するには、 s3 ： GetBucketConsistency 権限または root アカウントが必要です。

要求例

```
GET /bucket?x-ntap-sg-consistency HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

応答

応答XMLで、 `<Consistency>` は次のいずれかの値を返します。

整合性制御	説明
すべて	すべてのノードが即座にデータを受け取り、受け取れない場合は要求が失敗します。
strong-global	すべてのサイトのすべてのクライアント要求について、リードアフターライト整合性が保証されます。
strong-site	1 つのサイト内のすべてのクライアント要求について、リードアフターライト整合性が保証されます。
read-after-new-write の場合	（デフォルト）新規オブジェクトにはリードアフターライト整合性を、オブジェクトの更新には結果整合性を提供します。高可用性が確保され、データ保護が保証されます。ほとんどの場合に推奨されます。
利用可能	新規オブジェクトとオブジェクトの更新の両方について結果整合性を提供します。S3バケットの場合は、必要な場合にのみ使用します（読み取り頻度の低いログ値を含むバケットや、存在しないキーに対するHEAD処理やGET処理など）。S3 FabricPool バケットではサポートされません。

応答例

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Fri, 18 Sep 2020 01:02:18 GMT
Connection: CLOSE
Server: StorageGRID/11.5.0
x-amz-request-id: 12345
Content-Length: 127
Content-Type: application/xml

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Consistency xmlns="http://s3.storagegrid.com/doc/2015-02-01/">read-after-new-write</Consistency>
```

関連情報

"整合性制御"

PUT Bucket consistency

PUT Bucket consistency 要求を使用すると、バケットで実行される処理に適用する整合性レベルを指定できます。

新たに作成したオブジェクトに対しては、リードアフターライト整合性を保証するようにデフォルトの整合性制御が設定されます。

作業を開始する前に

この処理を完了するには、 s3 ： PutBucketConsistency 権限または root アカウントが必要です。

リクエスト

。 `x-ntap-sg-consistency` パラメータには次のいずれかの値を指定する必要があります。

整合性制御	説明
すべて	すべてのノードが即座にデータを受け取り、受け取れない場合は要求が失敗します。
strong-global	すべてのサイトのすべてのクライアント要求について、リードアフターライト整合性が保証されます。
strong-site	1 つのサイト内のすべてのクライアント要求について、リードアフターライト整合性が保証されます。

整合性制御	説明
read-after-new-write の場合	（デフォルト）新規オブジェクトにはリードアフターライト整合性を、オブジェクトの更新には結果整合性を提供します。高可用性が確保され、データ保護が保証されます。ほとんどの場合に推奨されます。
利用可能	新規オブジェクトとオブジェクトの更新の両方について結果整合性を提供します。S3バケットの場合は、必要な場合にのみ使用します（読み取り頻度の低いログ値を含むバケットや、存在しないキーに対するHEAD処理やGET処理など）。S3 FabricPool バケットではサポートされません。

- 注： * 一般的には、「 read-after-new-write 」整合性制御値を使用する必要があります。要求が正しく動作しない場合は、可能であればアプリケーションクライアントの動作を変更します。または、 API 要求ごとに整合性制御を指定するようにクライアントを設定します。バケットレベルの整合性制御は最後の手段と考えてください。

要求例

```
PUT /bucket?x-ntap-sg-consistency=strong-global HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

関連情報

"整合性制御"

GET Bucket last access time の場合

GET Bucket last access time 要求を使用すると、最終アクセス時間の更新が個々のバケットで有効になっているか無効になっているかを確認できます。

この処理を完了するには、 s3 ： GetBucketLastAccessTime 権限または root アカウントが必要です。

要求例

```
GET /bucket?x-ntap-sg-lastaccesstime HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

応答例

次の例では、バケットの最終アクセス時間の更新が有効になっています。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Sat, 29 Nov 2015 01:02:18 GMT
Connection: CLOSE
Server: StorageGRID/10.3.0
x-amz-request-id: 12345
Content-Length: 127
Content-Type: application/xml

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<LastAccessTime xmlns="http://s3.storagegrid.com/doc/2015-02-01/">enabled
</LastAccessTime>
```

PUT Bucket last access time のように指定します

PUT Bucket last access time 要求を使用すると、最終アクセス時間の更新を個々のバケットで有効または無効にできます。最終アクセス時間の更新を無効にするとパフォーマンスが向上します。バージョン 10.3.0 以降で作成されたバケットに対しては、いずれもデフォルトで無効になります。

この処理を完了するには、バケットの s3 ： PutBucketLastAccessTime 権限または root アカウントが必要です。

> StorageGRID バージョン 10.3 以降では、すべての新規バケットで最終アクセス時間の更新がデフォルトで無効になります。以前のバージョンの StorageGRID で作成されたバケットにこの新たなデフォルトの動作を適用する場合は、対象となるバケットごとに最終アクセス時間の更新を無効にする必要があります。最終アクセス時間の更新を有効または無効にするには、Tenant Managerの* S3 > Buckets > Change Last Access Setting*チェックボックス、またはテナント管理APIを使用します。

バケットで最終アクセス時間の更新が無効になっている場合、バケットの処理の動作は次のようになります。

- GET Object、GET Object ACL、GET Object Tagging、HEAD Objectの各要求では、最終アクセス時間が更新されません。オブジェクトは、情報ライフサイクル管理（ ILM ）評価のキューに追加されません。
- メタデータのみを更新する PUT Object - Copy 要求と PUT Object Tagging 要求では、最終アクセス時間も更新されます。オブジェクトは ILM 評価のキューに追加されます。
- ソースバケットで最終アクセス時間の更新が無効になっている場合は、PUT Object - Copy要求でソースバケットの最終アクセス時間が更新されません。コピーされたオブジェクトは、ソースバケットの ILM 評価のキューに追加されません。ただし、デスティネーションについては、 PUT Object - Copy 要求で常に最終アクセス時間が更新されます。オブジェクトのコピーは、 ILM 評価のキューに追加されます。
- Complete Multipart Upload 要求では、最終アクセス時間が更新されます。完了したオブジェクトは、 ILM 評価のキューに追加されます。

例をリクエストする

この例では、バケットの最終アクセス時間を有効にしています。

```
PUT /bucket?x-ntap-sg-lastaccesstime=enabled HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

この例では、バケットの最終アクセス時間を無効にしています。

```
PUT /bucket?x-ntap-sg-lastaccesstime=disabled HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

関連情報

"テナントアカウントを使用する"

バケットのメタデータ通知設定を削除します

DELETE Bucket metadata notification configuration 要求では、設定 XML を削除することで、個々のバケットで検索統合サービスを無効化できます。

この処理を完了するには、バケットの s3 ： DeleteBucketMetadataNotification 権限または root アカウントが必要です。

要求例

次の例は、バケットの検索統合サービスを無効にする方法を示しています。

```
DELETE /test1?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

GET Bucket metadata notification configuration

GET Bucket metadata notification configuration 要求では、個々のバケットで検索統合を設定するために使用する設定 XML を読み出すことができます。

この処理を完了するには、 s3 ： GetBucketMetadataNotification 権限または root アカウントが必要です。

要求例

次の要求は、というバケットのメタデータ通知設定を読み出します `bucket`。

```
GET /bucket?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

応答

応答の本文には、バケットのメタデータ通知設定が含まれます。メタデータ通知設定では、バケットでの検索統合の設定を確認できます。つまり、どのオブジェクトにインデックスが付けられ、そのオブジェクトメタデータがどのエンドポイントに送信されるかを確認できます。

```
<MetadataNotificationConfiguration>
    <Rule>
        <ID>Rule-1</ID>
        <Status>rule-status</Status>
        <Prefix>key-prefix</Prefix>
        <Destination>
           <Urn>arn:aws:es:_region:account-
ID_:domain/_mydomain/myindex/mytype_</Urn>
        </Destination>
    </Rule>
    <Rule>
        <ID>Rule-2</ID>
         ...
    </Rule>
     ...
</MetadataNotificationConfiguration>
```

各メタデータ通知設定には、 1 つ以上のルールが含まれています。各ルールは、環境 がオブジェクトを指定し、 StorageGRID がオブジェクトメタデータを送信するデスティネーションを指定します。デスティネーションは、 StorageGRID エンドポイントの URN を使用して指定する必要があります。

名前	説明	必須
MetadataNotificationConfiguration のページです	メタデータ通知でオブジェクトとデスティネーションの指定に使用されるルール用のコンテナタグ。 1 つ以上の Rule 要素を含みます。	はい。

名前	説明	必須
ルール	指定したインデックスにメタデータを追加する必要があるオブジェクトを特定するルール用のコンテナタグ。 プレフィックスが重複しているルールは拒否されます。 MetadataNotificationConfiguration 要素に含まれています。	はい。
ID	ルールの一意の識別子。 Rule 要素に含まれています。	いいえ
ステータス	Status には「 Enabled 」または「 Disabled 」を指定できます。無効になっているルールについては操作が実行されません。 Rule 要素に含まれています。	はい。
プレフィックス	プレフィックスと一致するオブジェクトにルールが適用され、そのメタデータが指定したデスティネーションに送信されます。 すべてのオブジェクトを照合するには、空のプレフィックスを指定します。 Rule 要素に含まれています。	はい。
宛先	ルールのデスティネーションのコンテナタグ。 Rule 要素に含まれています。	はい。

名前	説明	必須
URN	オブジェクトメタデータが送信されるデスティネーションの URN 。次のプロパティを持つ StorageGRID エンドポイントの URN を指定する必要があります。 • `es` 3番目のエレメントである必要があります。 • URNの末尾に、メタデータが格納されるインデックスとタイプを、の形式で指定する必要があります `domain-name/myindex/mytype`。 エンドポイントは、 Tenant Manager またはテナント管理 API を使用して設定します。形式は次のとおりです。 • `arn:aws:es:_region:account-ID_:domain/mydomain/myindex/mytype` • `urn:mysite:es:::mydomain/myindex/mytype` エンドポイントは設定 XML を送信する前に設定する必要があります。そうしないと、 404 エラーで設定が失敗します。 Urn は Destination 要素に含まれています。	はい。

応答例

間に含まれるXML `<MetadataNotificationConfiguration></MetadataNotificationConfiguration>` タグは、バケットに対して検索統合エンドポイントとの統合がどのように設定されているかを示します。次の例では、という名前のElasticsearchインデックスにオブジェクトメタデータが送信されています `current` と入力します `2017` という名前のAWSドメインでホストされている `records`。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Thu, 20 Jul 2017 18:24:05 GMT
Connection: KEEP-ALIVE
Server: StorageGRID/11.0.0
x-amz-request-id: 3832973499
Content-Length: 264
Content-Type: application/xml

<MetadataNotificationConfiguration>
    <Rule>
        <ID>Rule-1</ID>
        <Status>Enabled</Status>
        <Prefix>2017</Prefix>
        <Destination>
           <Urn>arn:aws:es:us-east-
1:3333333:domain/records/current/2017</Urn>
        </Destination>
    </Rule>
</MetadataNotificationConfiguration>
```

関連情報

"テナントアカウントを使用する"

PUT Bucket metadata notification configuration のコマンドです

PUT Bucket metadata notification configuration 要求を使用すると、個々のバケットで検索統合サービスを有効化できます。要求の本文に含めるメタデータ通知設定 XML では、デスティネーション検索インデックスにメタデータを送信するオブジェクトを指定します。

この処理を完了するには、バケットの s3 ： PutBucketMetadataNotification 権限または root アカウントが必要です。

リクエスト

要求の本文にメタデータ通知設定が含まれている必要があります。各メタデータ通知設定には、 1 つ以上のルールが含まれています。各ルールは、環境 がオブジェクトを指定し、 StorageGRID がオブジェクトメタデータを送信するデスティネーションを指定します。

オブジェクトはオブジェクト名のプレフィックスでフィルタリングできます。たとえば、というプレフィックスのオブジェクトのメタデータを送信できます `/images` を1つのデスティネーションに、プレフィックスがのオブジェクトに追加します `/videos` 別のノードに移動します

プレフィックスが重複している設定は有効ではなく、送信時に拒否されます。たとえば、プレフィックスがのオブジェクト用のルールを1つ含む設定などです `test` プレフィックスが付いたオブジェクトの2番目のルール

です `test2` 許可されません。

デスティネーションは、 StorageGRID エンドポイントの URN を使用して指定する必要があります。エンドポイントは、メタデータ通知設定が送信されたときに存在している必要があります。存在していない場合、要求がとして失敗します `400 Bad Request`。エラーメッセージ： `Unable to save the metadata notification (search) policy. The specified endpoint URN does not exist: URN.`

```
<MetadataNotificationConfiguration>
    <Rule>
        <ID>Rule-1</ID>
        <Status>rule-status</Status>
        <Prefix>key-prefix</Prefix>
        <Destination>
           <Urn>arn:aws:es:region:account-
ID:domain/mydomain/myindex/mytype</Urn>
        </Destination>
    </Rule>
    <Rule>
        <ID>Rule-2</ID>
         ...
    </Rule>
     ...
</MetadataNotificationConfiguration>
```

次の表に、メタデータ通知設定 XML の要素を示します。

名前	説明	必須
MetadataNotificationConfiguration のページです	メタデータ通知でオブジェクトとデスティネーションの指定に使用されるルール用のコンテナタグ。 1 つ以上の Rule 要素を含みます。	はい。
ルール	指定したインデックスにメタデータを追加する必要があるオブジェクトを特定するルール用のコンテナタグ。 プレフィックスが重複しているルールは拒否されます。 MetadataNotificationConfiguration 要素に含まれています。	はい。
ID	ルールの一意の識別子。 Rule 要素に含まれています。	いいえ

名前	説明	必須
ステータス	Status には「 Enabled 」または「 Disabled 」を指定できます。無効になっているルールについては操作が実行されません。 Rule 要素に含まれています。	はい。
プレフィックス	プレフィックスと一致するオブジェクトにルールが適用され、そのメタデータが指定したデスティネーションに送信されます。 すべてのオブジェクトを照合するには、空のプレフィックスを指定します。 Rule 要素に含まれています。	はい。
宛先	ルールのデスティネーションのコンテナタグ。 Rule 要素に含まれています。	はい。
URN	オブジェクトメタデータが送信されるデスティネーションの URN 。次のプロパティを持つ StorageGRID エンドポイントの URN を指定する必要があります。 • `es` 3番目のエレメントである必要があります。 • URNの末尾に、メタデータが格納されるインデックスとタイプを、の形式で指定する必要があります `domain-name/myindex/mytype`。 エンドポイントは、 Tenant Manager またはテナント管理 API を使用して設定します。形式は次のとおりです。 • `arn:aws:es:region:account-ID:domain/mydomain/myindex/mytype` • `urn:mysite:es:::mydomain/myindex/mytype` エンドポイントは設定 XML を送信する前に設定する必要があります。そうしないと、 404 エラーで設定が失敗します。 Urn は Destination 要素に含まれています。	はい。

例をリクエストする

次の例は、バケットの検索統合を有効にする方法を示しています。この例では、すべてのオブジェクトのオブ

ジェクトメタデータが同じデスティネーションに送信されます。

```
PUT /test1?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host

<MetadataNotificationConfiguration>
    <Rule>
        <ID>Rule-1</ID>
        <Status>Enabled</Status>
        <Prefix></Prefix>
        <Destination>
           <Urn>urn:sgws:es:::sgws-notifications/test1/all</Urn>
        </Destination>
    </Rule>
</MetadataNotificationConfiguration>
```

この例では、プレフィックスに一致するオブジェクトのオブジェクトメタデータを指定します `/images` が1つのデスティネーションに送信され、プレフィックスに一致するオブジェクトのオブジェクトメタデータが送信されます `/videos` 2番目の送信先に送信されます。

```
PUT /graphics?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host

<MetadataNotificationConfiguration>
    <Rule>
        <ID>Images-rule</ID>
        <Status>Enabled</Status>
        <Prefix>/images</Prefix>
        <Destination>
           <Urn>arn:aws:es:us-east-1:3333333:domain/es-
domain/graphics/imagetype</Urn>
        </Destination>
    </Rule>
    <Rule>
        <ID>Videos-rule</ID>
        <Status>Enabled</Status>
        <Prefix>/videos</Prefix>
        <Destination>
           <Urn>arn:aws:es:us-west-1:22222222:domain/es-
domain/graphics/videotype</Urn>
        </Destination>
    </Rule>
</MetadataNotificationConfiguration>
```

検索統合サービスで生成される **JSON**

バケットで検索統合サービスを有効にすると、オブジェクトのメタデータまたはタグの追加、更新、削除が行われるたびに、 JSON ドキュメントが生成されてデスティネーションエンドポイントに送信されます。

次の例は、キーを含むオブジェクトの場合に生成されるJSONを示しています `SGWS/Tagging.txt` は、という名前のバケットに作成されます `test`。。 `test` バケットはバージョン管理されていないため、を使用します `versionId` タグが空です。

```
{
  "bucket": "test",
  "key": "SGWS/Tagging.txt",
  "versionId": "",
  "accountId": "86928401983529626822",
  "size": 38,
  "md5": "3d6c7634a85436eee06d43415012855",
  "region":"us-east-1"
  "metadata": {
    "age": "25"
  },
  "tags": {
    "color": "yellow"
  }
}
```

メタデータ通知に含まれているオブジェクトメタデータ

次の表に、検索統合が有効になっている場合にデスティネーションエンドポイントに送信される JSON ドキュメント内のすべてのフィールドを示します。

ドキュメント名には、バケット名、オブジェクト名、バージョン ID （存在する場合）が含まれます。

を入力します	項目名	説明
バケットとオブジェクトの情報	バケット	バケットの名前
バケットとオブジェクトの情報	キーを押します	オブジェクトキーの名前
バケットとオブジェクトの情報	versionId	バージョン管理されたバケット内のオブジェクトのオブジェクトバージョン
バケットとオブジェクトの情報	リージョン	たとえば、バケットのリージョンのように指定します `us-east-1`
システムメタデータ	サイズ	HTTP クライアントから認識できるオブジェクトのサイズ（バイト）
システムメタデータ	MD5	オブジェクトのハッシュ
ユーザメタデータ	メタデータ *`key:value`*	オブジェクトのすべてのユーザメタデータをキーと値のペアとして格納

を入力します	項目名	説明
タグ	タグ *key:value*	オブジェクトに対して定義されたすべてのオブジェクトタグをキーと値のペアとして使用します

タグとユーザメタデータの場合、 StorageGRID は文字列または S3 イベント通知として Elasticsearch に日付と番号を渡します。これらの文字列を日付または数値として解釈するように Elasticsearch を設定するには、動的フィールドマッピングおよびマッピング日付形式に関する Elasticsearch の手順に従ってください。検索統合サービスを設定する前に、インデックスの動的フィールドマッピングを有効にする必要があります。ドキュメントのインデックス作成後は、インデックス内のドキュメントのフィールドタイプを編集することはできません。

関連情報

"テナントアカウントを使用する"

GET Storage Usage 要求の略

GET Storage Usage 要求を使用すると、アカウントで使用しているストレージの総容量とアカウントに関連付けられているバケットごとの使用容量を確認できます。

アカウントとそのバケットで使用されているストレージの量は、でGET Service要求を変更して取得できます `x-ntap-sg-usage` クエリパラメータ。バケットによるストレージの使用量は、システムで処理される PUT 要求や DELETE 要求とは別に追跡されます。特にシステムの負荷が高い場合などは、使用量の値が要求の処理に基づく想定値と同じになるまでに少し時間がかかることがあります。

デフォルトでは、 StorageGRID は strong-global 整合性を使用して、使用状況の情報を取得します。strong-global整合性を達成できない場合、StorageGRID はstrong-site整合性で使用状況情報を取得しようとします。

この処理を完了するには、 s3 ： ListAllMyBuckets 権限または root アカウントが必要です。

要求例

```
GET /?x-ntap-sg-usage HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

応答例

次の例は、 2 つのバケットに 4 つのオブジェクトと 12 バイトのデータが格納されたアカウントです。各バケットには、 2 つのオブジェクトと 6 バイトのデータが格納されています。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Sat, 29 Nov 2015 00:49:05 GMT
Connection: KEEP-ALIVE
Server: StorageGRID/10.2.0
x-amz-request-id: 727237123
Content-Length: 427
Content-Type: application/xml

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<UsageResult xmlns="http://s3.storagegrid.com/doc/2015-02-01">
<CalculationTime>2014-11-19T05:30:11.000000Z</CalculationTime>
<ObjectCount>4</ObjectCount>
<DataBytes>12</DataBytes>
<Buckets>
<Bucket>
<Name>bucket1</Name>
<ObjectCount>2</ObjectCount>
<DataBytes>6</DataBytes>
</Bucket>
<Bucket>
<Name>bucket2</Name>
<ObjectCount>2</ObjectCount>
<DataBytes>6</DataBytes>
</Bucket>
</Buckets>
</UsageResult>
```

バージョン管理

には、格納されているすべてのオブジェクトバージョンが関連します `ObjectCount` および `DataBytes` 応答の値。削除マーカーはに追加されません `ObjectCount` 合計。

関連情報

"整合性制御"

従来の準拠のためのバケット要求が廃止されました

従来の準拠機能で作成されたバケットの管理には、 StorageGRID S3 REST API の使用が必要になる場合があります。

コンプライアンス機能は廃止されました

以前のバージョンの StorageGRID で提供されていた StorageGRID 準拠機能は廃止され、 S3 オブジェクトロックに置き換えられました。

グローバル準拠設定を有効にしている場合は、 StorageGRID 11.6 でグローバル S3 オブジェクトロック設定が有効になっています。準拠を有効にした新しいバケットは作成できなくなりました。ただし、必要に応じて、 StorageGRID S3 REST API を使用して、従来の準拠バケットを管理できます。

- "S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"
- "ILM を使用してオブジェクトを管理する"
- "ネットアップのナレッジベース： StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"

廃止された準拠要求：

- "DEPRECATED - PUT Bucket request modifications for compliance"

  SGCompliance XML 要素は廃止されました。これまでは、この StorageGRID カスタム要素を PUT Bucket 要求のオプションの XML 要求の本文に含めて準拠バケットを作成できました。

- "廃止予定- GET Bucket compliance"

  GET Bucket compliance 要求は廃止されました。ただし、既存のレガシー準拠バケットに対して現在有効な準拠設定を引き続き確認することができます。

- "廃止されました。PUT Bucket compliance"

  PUT Bucket compliance 要求は廃止されました。ただし、この要求を引き続き使用して、既存のレガシー準拠バケットの準拠設定を変更できます。たとえば、既存のバケットをリーガルホールドの対象にしたり、バケットの保持期間を長くしたりできます。

廃止：準拠のための **PUT Bucket** 要求の変更

SGCompliance XML 要素は廃止されました。これまでは、この StorageGRID カスタム要素を PUT Bucket 要求のオプションの XML 要求の本文に含めて準拠バケットを作成できました。

以前のバージョンの StorageGRID で提供されていた StorageGRID 準拠機能は廃止され、 S3 オブジェクトロックに置き換えられました。

"S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"

"ILM を使用してオブジェクトを管理する"

"ネットアップのナレッジベース： StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"

準拠を有効にした新しいバケットを作成することはできなくなりました。準拠バケットを新しく作成するために PUT Bucket 要求の変更を使用しようとすると、次のエラーメッセージが返されます。

```
The Compliance feature is deprecated.
Contact your StorageGRID administrator if you need to create new Compliant
buckets.
```

廃止予定： **GET Bucket compliance** 要求

GET Bucket compliance 要求は廃止されました。ただし、既存のレガシー準拠バケットに対して現在有効な準拠設定を引き続き確認することができます。

以前のバージョンの StorageGRID で提供されていた StorageGRID 準拠機能は廃止され、 S3 オブジェクトロックに置き換えられました。

"S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"

"ILM を使用してオブジェクトを管理する"

"ネットアップのナレッジベース： StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"

この処理を完了するには、 s3 ： GetBucketCompliance 権限または root アカウントが必要です。

要求例

次の要求例では、という名前のバケットの準拠設定を確認できます `mybucket`。

```
GET /mybucket/?x-ntap-sg-compliance HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization string
Host: host
```

応答例

応答XMLで、 `<SGCompliance>` バケットで有効な準拠設定が表示されます。次の応答例では、バケットの準拠設定が示されており、各オブジェクトはグリッドに取り込まれてから 1 年間（ 525 、 600 分）保持されます。このバケットには現在リーガルホールドはありません。各オブジェクトは 1 年後に自動的に削除されます。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: date
Connection: connection
Server: StorageGRID/11.1.0
x-amz-request-id: request ID
Content-Length: length
Content-Type: application/xml

<SGCompliance>
  <RetentionPeriodMinutes>525600</RetentionPeriodMinutes>
  <LegalHold>false</LegalHold>
  <AutoDelete>true</AutoDelete>
</SGCompliance>
```

名前	説明
RetentionPeriodMinutes です	このバケットに追加されたオブジェクトの保持期間を分で指定します。保持期間は、オブジェクトがグリッドに取り込まれたときからの期間です。
LegalHold のようになります	• True ：このバケットは、現在リーガルホールドの対象です。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎても、リーガルホールドが解除されるまで削除できません。 • False ：このバケットは、現在リーガルホールドの対象ではありません。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎたら削除できます。
自動削除	• True ：このバケット内のオブジェクトは、バケットがリーガルホールドの対象である場合を除き、保持期間が過ぎると自動的に削除されます。 • false ：このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎても自動的には削除されません。これらのオブジェクトを削除する必要がある場合は、手動で削除する必要があります。

エラー応答

バケットが準拠バケットとして作成されていない場合、応答のHTTPステータスコードはになります `404 Not Found`を返します `XNoSuchBucketCompliance`。

廃止予定： **PUT Bucket compliance** 要求

PUT Bucket compliance 要求は廃止されました。ただし、この要求を引き続き使用して、既存のレガシー準拠バケットの準拠設定を変更できます。たとえば、既存のバケットをリーガルホールドの対象にしたり、バケットの保持期間を長くしたりできます。

以前のバージョンの StorageGRID で提供されていた StorageGRID 準拠機能は廃止され、 S3 オブジェクトロックに置き換えられました。

"S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定します"

"ILM を使用してオブジェクトを管理する"

"ネットアップのナレッジベース： StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"

この処理を完了するには、 s3 ： PutBucketCompliance 権限または root アカウントが必要です。

PUT Bucket compliance 要求を発行する際は、準拠設定のすべてのフィールドに値を指定する必要があります。

要求例

次の要求例では、という名前のバケットの準拠設定を変更します `mybucket`。この例では、のオブジェクトが

表示されています `mybucket` オブジェクトがグリッドに取り込まれてから1年間ではなく2年間（1、051、200分）保持されます。このバケットにリーガルホールドはありません。各オブジェクトは 2 年後に自動的に削除されます。

```
PUT /mybucket/?x-ntap-sg-compliance HTTP/1.1
Date: date
Authorization: authorization name
Host: host
Content-Length: 152

<SGCompliance>
  <RetentionPeriodMinutes>1051200</RetentionPeriodMinutes>
  <LegalHold>false</LegalHold>
  <AutoDelete>true</AutoDelete>
</SGCompliance>
```

名前	説明
RetentionPeriodMinutes です	このバケットに追加されたオブジェクトの保持期間を分で指定します。保持期間は、オブジェクトがグリッドに取り込まれたときからの期間です。 重要 RetentionPeriodMinutesに新しい値を指定する場合は、バケットの現在の保持期間以上の値を指定する必要があります。バケットの保持期間の設定後は、その値を減らすことはできず、増やすことしかできません。
LegalHold のようになります	• True ：このバケットは、現在リーガルホールドの対象です。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎても、リーガルホールドが解除されるまで削除できません。 • False ：このバケットは、現在リーガルホールドの対象ではありません。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎたら削除できます。
自動削除	• True ：このバケット内のオブジェクトは、バケットがリーガルホールドの対象である場合を除き、保持期間が過ぎると自動的に削除されます。 • false ：このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎても自動的には削除されません。これらのオブジェクトを削除する必要がある場合は、手動で削除する必要があります。

準拠設定の整合性レベル

PUT Bucket compliance 要求によって S3 バケットの準拠設定を更新すると、 StorageGRID は、グリッド全体のバケットのメタデータを更新しようとします。デフォルトでは、 StorageGRID は * strong-global * 整合性レベルを使用し、バケットのメタデータを含むすべてのデータセンターサイトおよびストレージノードで、変更された準拠設定のリードアフターライト整合性を保証します。

データセンターサイトまたはサイトの複数のストレージノードが利用できないために、StorageGRID が* strong-global *整合性レベルを達成できない場合、応答のHTTPステータスコードはになります `503 Service Unavailable.`

この応答を受け取った場合は、必要なストレージサービスをできるだけ早く利用可能にするために、グリッド管理者に問い合わせる必要があります。グリッド管理者が各サイトで十分な数のストレージノードを利用可能にできない場合は、テクニカルサポートから、 * strong-site * 整合性レベルを強制的に適用することで、失敗した要求を再試行するよう指示される場合があります。

> テクニカルサポートから指示があった場合や、このレベルを使用した場合の影響を理解している場合を除き、 PUT Bucket compliance で * strong-site * 整合性レベルを強制的に適用することは避けてください。

整合性レベルを * strong-site * 」に下げると、 StorageGRID は、サイト内のクライアント要求に対してのみ、更新された準拠設定のリードアフターライト整合性を保証します。そのため、すべてのサイトおよびストレージノードが利用可能になるまでの間、 StorageGRID システムにはこのバケットに対して複数の異なる設定が一時的に存在することになる場合があります。整合性のない設定を使用すると、予期せぬ望ましくない動作が生じる可能性がありますたとえば、あるバケットをリーガルホールドの対象にして、低い整合性レベルを強制的に適用すると、一部のデータセンターサイトでバケットの以前の準拠設定（つまり、リーガルホールドの対象外の状態）が引き続き適用される場合があります。したがって、リーガルホールドの対象と思われるオブジェクトは、保持期間が経過すると、ユーザによって削除される場合と、 AutoDelete によって削除される場合があります。

strong-site *整合性レベルを強制的に適用するには、PUT Bucket compliance要求を再発行し、を含めてください `Consistency-Control` HTTP要求ヘッダー。

```
PUT /mybucket/?x-ntap-sg-compliance HTTP/1.1
Consistency-Control: strong-site
```

エラー応答

- バケットが準拠バケットとして作成されていない場合、応答のHTTPステータスコードはになります `404 Not Found`。
- 状況 `RetentionPeriodMinutes` 要求がバケットの現在の保持期間よりも短い場合、HTTPステータスコードはになります `400 Bad Request`。

関連情報

"廃止：準拠のための PUT Bucket 要求の変更"

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。